三つ葉の会　春の実務者向けシンポジウム
「泉北ニュータウン地域でのより良い医療介護連携を考える2023」

医療法人良秀会
泉北藤井病院

診療科目：内科、腎臓内科、人工透析内科、消化器内科、循環器内科
整形外科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科

診療時間：午前診　9：00～12：00(月～土)
午後診　15：00～17：30(月・金)
14：30～17：00(水　泌尿器科)

主な施設基準
　療養病棟入院基本料１、療養病棟療養環境加算１、脳血管リハビリテーション料Ⅱ、運動器リハビリテーション料Ⅰ、CT撮影及びMRI撮影、

ベッド数

病床	病床数
一般	
回復期リハビリテーション	
地域包括ケア	
精神	
療養	59
障害	
緩和ケア	
その他	
合計	59

入院中に管理すべき医療行為別受け入れ可否

医療行為	受入可否
胃瘻管理	可
胃瘻交換	可
腸瘻管理	可
腸瘻交換	否
IVH（CVポート）造設	否
IVH（CVポート）管理	可
膀胱留置カテーテル	可
腎盂カテーテル	否
人工肛門・膀胱	人工肛門のみ可
気管切開	可
人工呼吸器管理	否
人工透析	可

腎ろう、膀胱ろうの方は、お受入できません

- 平成11年11月　堺市南区泉田中に泉北藤井院病開院（一般病床40床）開院時より慢性腎不全に対し人工透析治療を行う
- 平成21年　女性泌尿器科（ウロギネ）診療開始外来及び手術を行う
- 平成26年11月　女性泌尿器科（ウロギネ）の高石藤井病院への移管に伴い、一般病床40床を医療療養病床へ変更
- 平成30年11月　堺市内の同一法人施設　津久野藤井クリニック（有床診療所）19床を移管し医療療養病床59床に変更
- 令和3年10月現在、人工透析及び内科治療を主体とした診療を行っている

当院の特色

- ①病院らしくないホテルのような外観や内装

ピアノの自動演奏を聴きながら、待ち時間もゆったりとお過ごしいただけます

- ②広い廊下幅や木を基調とした温もりを感じる病室

長く入院される患者さまも多いことから、ベッド周りの家具にもこだわっています

- ③急性期病棟や回復期リハビリ病棟での治療を終えられた患者さまにも引き続き理学療法士および作業療法士による手厚いリハビリテーションを実施しています

入院だけでなく、通院や訪問でのリハビリテーションも行っています

入院

リハビリの実施頻度

1 単位：20 分　1 ヶ月 4 週とする
2～4 単位 / 日　週 5 回　月 80 単位程度施行可能です
※脳血管障害、運動器障害、廃用症候群等の疾患別での差はありません
　患者さまの体調、各検査・評価に基づき実施頻度は決定します
※言語聴覚士は在籍していません

外来リハビリ・訪問リハビリテーション：介護保険使用

リハビリの実施頻度

1～2 回 / 週　4～8回 / 月程度施行可能です
※ご家族さま・患者さまのニーズ・コンディションに
　合わせてリハビリテーション提供させて頂きます

対象者

1. 今後も引き続き、なるべく沢山のリハビリを行いたい方
2. 入院中に体力が落ち、動作も衰えてしまったので、
　充実したリハビリを受けて回復したい方
3. 回復期・一般病棟でのリハビリが終了したが、
　今の日常生活動作・体力では不安な方

※院内にリハビリ・医療相談窓口を開設しております
不明な点や気になっている事などありましたら、お気軽にお問い合わせください
（問い合わせ先：受付、日時：毎週月から金曜日　AM11：00～12：00 頃迄）

https://www.ryoshukai.or.jp/medical/senboku/

- ④管理栄養士監修のもと、長期入院の患者さまの「食の楽しみ」を大切にしています

全国各地のご当地メニュー

嚥下困難な患者さまへのソフト食の提供

コロナ禍で外出泊も難しい中、月替わりのご当地メニューは大変好評です。またソフト食は調理過程に時間と手間はかかりますが、嚥下機能の低下した患者さまにも見た目は一般食と変わらない食事を提供することで喜んで頂いています。

ソフト食の作り方①

材料を切る

材料を煮る

ゼリー化剤を入れ
ミキサーにかける

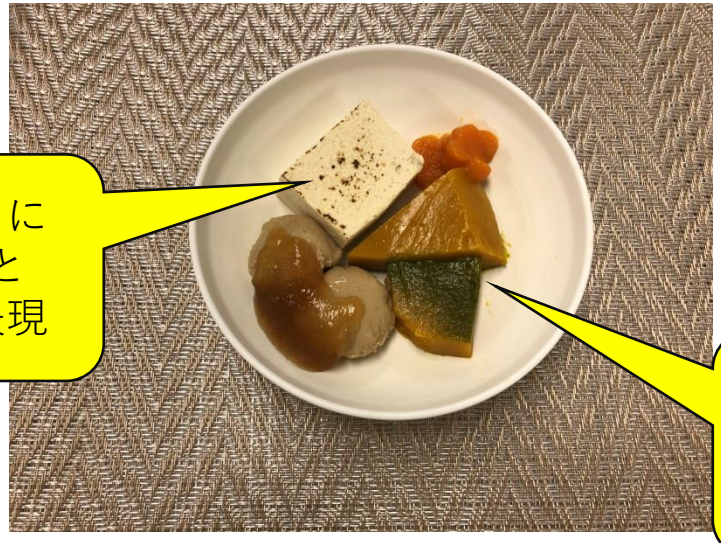
引用：イラストや

ソフト食の作り方②

型に流して
成形する

カットして
盛り付ける

引用：イラストや



焼き豆腐はペーストに
してから固めたあと
バーナーで炙って表現

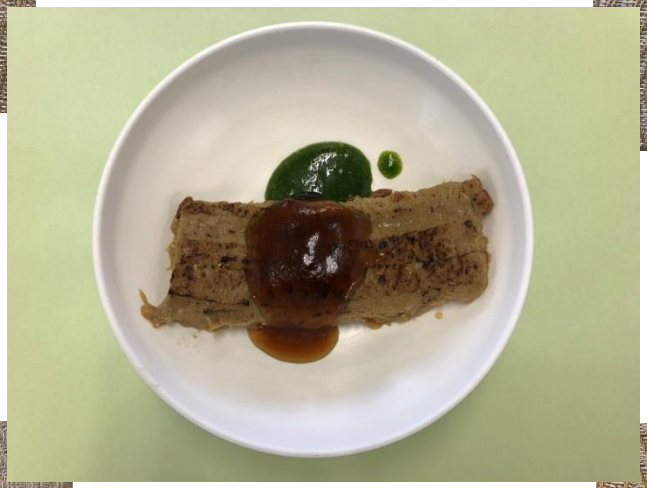
南瓜は皮のみどりと中身を
別々にミキサーにして
重ねてからカット

ソフト食一例

筑前煮

卵入り煮物

うなぎのかば焼き



ハンバーグ

クリームシチュー

- ⑤開院当初からの人工透析治療を主軸に、難病疾患（パーキンソン病等）をふくめた長期療養の必要な内科患者さまの受け入れを行っています

基本的に入院の期限は設けておりません。気軽にご相談ください。

写真は人工透析室内

⑥多職種連携を推奨し、チーム医療を実践
（写真は全職種参加の事例検討会）

小規模の病院だからこそ、部署を超えた連携を大切にしています。1人の患者さまに多職種が関わり、個別性の高い医療・介護を提供しています。

コロナ禍での入院患者様への取り組み①

・対面式面会の代わりにオンライン面会（ＺＯＯＭ）の実施及び四半期に１度の頻度で患者様家族へ近況報告と写真を載せたお便りを配布。

コロナ禍での入院患者様への取り組み②

- 談話室でリハビリ体操やレクリエーション（太鼓の達人）の実施。

コロナ禍での入院患者様への取り組み③

- ノンアルコールビールを提供し泉北亭と書いたのぼりも用意し、居酒屋気分を満喫。
- 外出や外泊も出来ず家族とも会えない状況下で少しでも気分転換になればと実施。

七夕の短冊に患者様が書かれた「ビールが飲みたい」という願い事を実現するために計画しました。患者様の声を大切にしています

コロナ禍での透析センターの取組み

- 感染対策を実施した上で新規の外来透析患者様の事前施設見学を継続して実施。
- 外来透析患者様一人一人に体調管理票をお渡しし、各自自宅で記入し来院時に確認する事でコロナ感染者を早期に発見し、感染拡大（クラスター）を防いだ。
- 対面での症例検討会が実施出来ない中、電子カルテの院内メールを使用して、部署外の職員とも情報を共有し、意見を募りました。

「ひとりの患者様を全職員で支える」ことを大切にしています。

地域医療連携業務について

①病院代表電話　(072-295-8888)におかけ頂くと、総務課担当者が患者様の情報をお伺い致します。

（月～土　8:30～17:30　日曜・祝日は不在となります）

②入院相談・外来診療予約のいずれの場合も患者様の診療情報提供書のFAX送付をお願い致します

（072-295-8188）

③医師確認後、お受入可否を回答致します。

必要に応じてご家族様面談を実施し、受入れを判断し日程を調整させて頂きます。

入院相談に際し下記の点をお伺いしております

・患者様の病状
・キーパーソン
・ADL（寝たきり or 車椅子　or 独歩）
・認知症症状の有無（徘徊,不穏,記銘障害　等）
・感染症治療の有無（MRSA、疥癬　等）
・心肺蘇生時の延命処置を希望されるか（CPR）
・当院が療養型病院であることのご確認が取れているか
・問題行動の有無（暴言、暴力行為等）
・新型コロナワクチン等の接種歴